

令和元年 11 月 28 日
気象庁地震火山部

配信資料に関する技術情報第 526 号

～ 新たな形式の電文による「南海トラフ地震臨時情報」及び
「南海トラフ地震関連解説情報」の配信について ～
(配信資料に関する技術情報(地震火山編)第 472 号、平成 31 年 4 月 26 日付及び
令和元年 5 月 31 日付「配信資料に関するお知らせ」関連)

概要

気象庁では、南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合等に、「南海トラフ地震臨時情報」及び「南海トラフ地震関連解説情報」(以下この 2 種類の情報をあわせて「南海トラフ地震に関連する情報」という。)でお知らせしております。これらは従来より用いている「地震情報(地震の活動状況等に関する情報)」の電文(VXSE56。以下「移行措置電文」という。)を活用して発表していましたが、今般新たな形式の電文(以下「新電文」という。)を定めましたので以下のとおりお示しします。

1 配信開始予定日時等

令和 2 年 6 月頃

※新電文の配信開始前に新電文を用いた試験配信を実施する予定です。

※配信開始や試験配信の具体的な日時は、決まり次第、「配信資料に関するお知らせ」によりお知らせします。

なお、新電文の配信開始から 2 年間程度は、現行の電文も移行措置電文として並行配信します。また、移行措置電文の並行配信終了の具体的な日時については、決まり次第、「配信資料に関するお知らせ」により別途お知らせします。

新電文及び移行措置電文による南海トラフ地震に関連する情報のサンプルデータを(一財)気象業務支援センターを通じて提供しますので、必要な場合はご利用下さい。

2 情報の内容等

(1) 情報の内容

南海トラフ地震に関連する情報は、南海トラフ全域を対象に地震発生の可能性の高まりについてお知らせするもので、この情報の種類とそれぞれの発表条件は別添資料 1 のとおりです。

詳しくは、気象庁ホームページ掲載の「南海トラフ地震に関連する情報の種類と発表条件」

(https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/info_criterion.html) を参照してください。

(2) 新電文の種類

南海トラフ地震に関連する情報の新電文の種類は以下のとおりです。

VYSE50：南海トラフ地震臨時情報

VYSE51：南海トラフ地震関連解説情報^{※1}

VYSE52：南海トラフ地震関連解説情報^{※2}

※1：観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況等を発表する場合の情報
(以下「定例以外の解説情報」という。)

※2：「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合の情報 (以下「定例の解説情報」という。)

3 新電文の仕様

(1) 情報名、データ種類コード、サイズ

新電文の情報名称、データ種類コード、サイズは以下のとおりです。

資料 (情報) 名	管理部・情報名称 (Control部のTitle)	データ種類 コード	サイズ (kbyte)		備考
			平均	最大	
南海トラフ地震臨時情報	南海トラフ地震臨時情報	VYSE50	3	10	
南海トラフ地震関連解説情報	南海トラフ地震関連解説情報	VYSE51	3	10	観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況等を発表する場合の情報
		VYSE52	3	10	「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合の情報

(2) スキーマの運用種別情報のバージョン番号及び影響のあるスキーマのバージョン

新電文のスキーマの運用種別情報のバージョン番号 (Head/InfoKindVersion) 及び影響のあるスキーマのバージョンは以下のとおりです。

変更対象となる運用種別情報	最新バージョン	影響のある電文の情報名称	影響のあるスキーマのバージョン		
			jmx	jmx_ib	jmx_seis
"南海トラフ地震に関連する情報"	1.1_0	"南海トラフ地震臨時情報"	1.0b	1.0c	1.1
	1.1_0	"南海トラフ地震関連解説情報"	1.0b	1.0c	1.1

(3) 各要素の内容

新電文の各要素の内容は、以下のとおりです (別添資料2を参照)。

①情報名称 (Control/Title) には、以下の文言を用います

”南海トラフ地震臨時情報”

- ” 南海トラフ地震関連解説情報”
- ②標題 (Head/Title) には、以下の文言を用います
- ” 南海トラフ地震臨時情報 (●●●)”
 (注：●●●は付記するキーワード：“ 調査中”、“ 巨大地震警戒”、“ 巨大地震注意”、“ 調査終了”)
- ” 南海トラフ地震関連解説情報 (第○号)”
 (注：定例以外の解説情報の場合、一連の情報番号を付記する)
- ” 南海トラフ地震関連解説情報”
 (注：定例の解説情報の場合、情報番号は無い)
- ③情報番号 (Head/Serial) を定例以外の解説情報の電文 (VYSE51) で運用します。この他の情報の電文 (VYSE50、VYSE52) では、情報番号は常に空要素となります。
- ④運用種別情報 (Head/InfoKind) には、以下の文言を用います。
- ” 南海トラフ地震に関連する情報”
- ⑤内容部 (Body) は以下の要素で構成されます。
- | | |
|--------------------------------------|-------------|
| Body/EarthquakeInfo | 【地震関連情報】 |
| Body/EarthquakeInfo/InfoKind | 【情報名称】 |
| Body/EarthquakeInfo/InfoSerial | 【情報種別番号】 |
| Body/EarthquakeInfo/InfoSerial /Name | 【情報種別番号名】 |
| Body/EarthquakeInfo/InfoSerial /Code | 【情報種別番号コード】 |
| Body/EarthquakeInfo/Text | 【本文】 |
| Body/EarthquakeInfo/Appendix | 【参考情報】 |
| Body/NextAdvisory | 【次回発表予定】 |
| Body/Text | 【テキスト要素】 |
- ⑥情報種別番号 (Body/EarthquakeInfo/InfoSerial) で用いるコード (種別：“ 地震関連情報番号コード”) は次表のとおりです。

地震関連情報番号		
Code	Name	備考
111	調査中	監視領域内でマグニチュード6.8以上の地震が発生したことにより、臨時に「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催する場合 【このコードは、「南海トラフ地震臨時情報」で運用する】
112	調査中	1カ所以上のひずみ計での有意な変化と共に、他の複数の観測点でもそれに関係すると思われる変化が観測され、想定震源域内のプレート境界で通常と異なるゆっくりすべりが発生している可能性がある場合など、ひずみ計で南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる変化を観測したことにより、臨時に「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催する場合 【このコードは、「南海トラフ地震臨時情報」で運用する】
113	調査中	その他、想定震源域内のプレート境界の固着状態の変化を示す可能性のある現象が観測される等、南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる現象を観測したことにより、臨時に「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催する場合 【このコードは、「南海トラフ地震臨時情報」で運用する】
120	巨大地震警戒	【このコードは、「南海トラフ地震臨時情報」で運用する】
130	巨大地震注意	【このコードは、「南海トラフ地震臨時情報」で運用する】
190	調査終了	【このコードは、「南海トラフ地震臨時情報」で運用する】
200	定例解説	【このコードは、「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合の「南海トラフ地震関連解説情報」で運用する】
210	臨時解説	次回も定例以外（“臨時解説”）で発表する場合 【このコードは、観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況等を発表する場合の「南海トラフ地震関連解説情報」で運用する】
219	臨時解説	次回は定例（“定例解説”）で発表する場合 【このコードは、観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況等を発表する場合の「南海トラフ地震関連解説情報」で運用する】

⑦次回発表予定の運用

次回発表予定（Body/NextAdvisory）は、南海トラフ地震臨時情報の電文（VYSE50）と定例以外の解説情報の電文（VYSE51）でのみ記載し、定例の解説情報の電文（VYSE52）では記載しません。

（４）電文例

新電文の具体的な例（電文例1～3：電文中の赤字部分は移行措置電文との違いがある箇所）を次ページ以降に示します。

【電文例1】VYSE50：南海トラフ地震臨時情報（“巨大地震警戒”の場合）

```
VYSE50 RJTD 070504@
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Report xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/" xmlns:jmx="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/">
  <Control>
    <Title>南海トラフ地震臨時情報</Title>
    <DateTime>2019-11-07T05:04:24Z</DateTime>
    <Status>通常</Status>
    <EditorialOffice>気象庁本庁</EditorialOffice>
    <PublishingOffice>気象庁</PublishingOffice>
  </Control>
  <Head xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/informationBasis1/">
    <Title>南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）</Title>
    <ReportDateTime>2019-11-07T14:04:00+09:00</ReportDateTime>
    <TargetDateTime>2019-11-07T14:04:00+09:00</TargetDateTime>
    <EventID>20191107140400</EventID>
    <InfoType>発表</InfoType>
    <Serial></Serial>
    <InfoKind>南海トラフ地震に関連する情報</InfoKind>
    <InfoKindVersion>1.1_0</InfoKindVersion>
    <Headline>
      <Text>
        本日（●日）●時●分に●●●●●●を震源とするM●.●の地震が発生しました。この地震と南海トラフ地震との関連性
        について検討した結果、この地震は南海トラフ地震の想定震源域のプレート境界のうち、●●●●●●から●●●●●●にか
        けての領域で発生したモーメントマグニチュード●.●の地震と評価されました。
        南海トラフ地震の想定震源域では、大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。世界
        の事例ではM8.0以上の地震発生後に隣接領域で、M8クラス以上の地震が7日以内に発生する頻度は十数回に1回程度と
        なります。今後の政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください。
      </Text>
    </Headline>
  </Head>
  <Body xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/body/seismology1/"
  xmlns:jmx_eb="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/elementBasis1/">
    <EarthquakeInfo type="南海トラフ地震に関連する情報">
      <InfoKind>南海トラフ地震臨時情報</InfoKind>
      <InfoSerial codeType="地震関連情報番号コード">
        <Name>巨大地震警戒</Name>
        <Code>120</Code>
      </InfoSerial>
      <Text>
        本日（●日）●時●分に、●●●●●●を震源とするM●.●の地震が発生しました。その後の地震活動は活発な状態が
        続いています。また、●●地域のひずみ観測点では、M●.●の地震に伴う変化（とそれに引き続きゆっくりとした変化）が
        観測されています。
        気象庁では、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会を臨時に開催し、この地震と南海トラフ地震との関連性について
        検討しました。
        （途中省略）
        今後の政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください。
        気象庁では、引き続き注意深く南海トラフ沿いの地殻活動の推移を監視します。
      </Text>
      <Appendix>
        ** （参考） 南海トラフ地震に関連する情報の種類 **
        【南海トラフ地震臨時情報】
        （途中省略）
        【南海トラフ地震関連解説情報】
        （以下省略）
      </Appendix>
    </EarthquakeInfo>
    <NextAdvisory>
      今後は、「南海トラフ地震関連解説情報」で地殻活動の状況等を発表します。次回の情報発表は、●時頃を予定してい
      ます。
      なお、新たな変化を観測した場合には随時発表します。
    </NextAdvisory>
  </Body>
</Report>
```

【電文例2】VYSE51：南海トラフ地震関連解説情報（観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況等を発表する場合）

```

VYSE51 RJTD 070510@
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Report xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/" xmlns:jmx="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/">
<Control>
  <Title>南海トラフ地震関連解説情報</Title>
  <DateTime>2019-11-07T05:10:36Z</DateTime>
  <Status>通常</Status>
  <EditorialOffice>気象庁本庁</EditorialOffice>
  <PublishingOffice>気象庁</PublishingOffice>
</Control>
<Head xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/informationBasis1/">
  <Title>南海トラフ地震関連解説情報（第2号）</Title>
  <ReportDateTime>2019-11-07T14:10:00+09:00</ReportDateTime>
  <TargetDateTime>2019-11-07T14:10:00+09:00</TargetDateTime>
  <EventID>20191107140900</EventID>
  <InfoType>発表</InfoType>
  <Serial>2</Serial>
  <InfoKind>南海トラフ地震に関する情報</InfoKind>
  <InfoKindVersion>1.1_0</InfoKindVersion>
  <Headline>
    <Text>
      昨日（●日）●時●分頃に●●●●●●●●を震源とするM●.●（モーメントマグニチュード●.●）の地震が発生しました。その後も地震活動は活発な状態が続いています。
      この地震と南海トラフ地震との関連性について検討した結果、この地震は南海トラフ地震の想定震源域のプレート境界のうち、●●●●●●から●●●●●●にかけての領域で発生したものと考えられます。

      政府では、南海トラフ地震防災対策推進地域に対して●月●日●時まで警戒（注意）する措置をとるよう呼びかけています。引き続き、政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください。
    </Text>
  </Headline>
</Head>
<Body xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/body/seismology1/" xmlns:jmx_eb="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/elementBasis1/">
  <EarthquakeInfo type="南海トラフ地震に関する情報">
    <InfoKind>南海トラフ地震関連解説情報</InfoKind>
    <InfoSerial codeType="地震関連情報番号コード">
      <Name>臨時解説</Name>
      <Code>210</Code>
    </InfoSerial>
    <Text>
      昨日（●日）●時●分に、●●●●●●●●を震源とするM●.●（モーメントマグニチュード●.●）の地震が発生しました。その後も地震活動は活発な状態が続いています。
      昨日（●日）●時から本日（●日）●時までに南海トラフ地震の想定震源域で発生したM●.●以上（暫定値）の地震回数は次の通りです。
      （途中省略）
      政府では、南海トラフ地震防災対策推進地域に対して●月●日●時まで警戒（注意）する措置をとるよう呼びかけ等しています。引き続き、政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください。
      気象庁では、引き続き注意深く南海トラフ沿いの地殻活動の推移を監視します。
    </Text>
  </EarthquakeInfo>
  <Appendix>
    ** （参考） 南海トラフ地震に関する情報の種類 **
    【南海トラフ地震臨時情報】
    （途中省略）
    【南海トラフ地震関連解説情報】
    （以下省略）
  </Appendix>
  <NextAdvisory>
    今後も、「南海トラフ地震関連解説情報」で地殻活動の状況等を発表します。次回の情報発表は、●日●時頃を予定しています。
    なお、新たな変化を観測した場合には随時発表します。
  </NextAdvisory>
</Body>
</Report>

```

【電文例3】VYSE52：南海トラフ地震関連解説情報（「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合）

```
VYSE52 RJTD 070512@
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Report xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/" xmlns:jmx="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/">
  <Control>
    <Title>南海トラフ地震関連解説情報</Title>
    <DateTime>2019-11-07T05:12:33Z</DateTime>
    <Status>通常</Status>
    <EditorialOffice>気象庁本庁</EditorialOffice>
    <PublishingOffice>気象庁</PublishingOffice>
  </Control>
  <Head xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/informationBasis1/">
    <Title>南海トラフ地震関連解説情報</Title>
    <ReportDateTime>2019-11-07T14:12:00+09:00</ReportDateTime>
    <TargetDateTime>2019-11-07T14:12:00+09:00</TargetDateTime>
    <EventID>20191107141200</EventID>
    <InfoType>発表</InfoType>
    <Serial></Serial>
    <InfoKind>南海トラフ地震に関する情報</InfoKind>
    <InfoKindVersion>1.1_0</InfoKindVersion>
    <Headline>
      <Text>
        第●回南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、第●回地震防災対策強化地域判定会で、南海トラフ周辺の地殻活動を評価しました。
      </Text>
    </Headline>
  </Head>
  <Body xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/body/seismology1/"
  xmlns:jmx_eb="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/elementBasis1/">
    <EarthquakeInfo type="南海トラフ地震に関する情報">
      <InfoKind>南海トラフ地震関連解説情報</InfoKind>
      <InfoSerial codeType="地震関連情報番号コード">
        <Name>定例解説</Name>
        <Code>200</Code>
      </InfoSerial>
      <Text>
        本日（●月●日）開催した第●回南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、第●回地震防災対策強化地域判定会で評価した、南海トラフ周辺の地殻活動の調査結果は以下のとおりです。

        現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時（注）と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

        （途中省略）

        1. 地震の観測状況
        （途中省略）
        2. 地殻変動の観測状況
        （途中省略）
        3. 地殻活動の評価
        （途中省略）

        上記観測結果を総合的に判断すると、南海トラフ地震の想定震源域ではプレート境界の固着状況に特段の変化を示すようなデータは今のところ得られておらず、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていないと考えられます。
      </Text>
      <Appendix>
        ** （参考） 南海トラフ地震に関する情報の種類 **
        【南海トラフ地震臨時情報】
        （途中省略）
        【南海トラフ地震関連解説情報】
        （以下省略）
      </Appendix>
    </EarthquakeInfo>
  </Body>
</Report>
```

(5) その他

その他、新電文の仕様の詳細は別添資料 3 を参照してください。

また、気象庁ホームページ掲載の「気象庁防災情報 XML フォーマット 技術資料」(http://xml.kishou.go.jp/tec_material.html) も参照してください。

4 その他 (留意すべき事項等)

これまでの経緯の詳細及び移行措置電文の仕様は別添資料 4 に示します。

5 添付資料

別添資料 1 : 「南海トラフ地震に関連する情報」について

別添資料 2 : 「南海トラフ地震に関連する情報」新電文の各要素の内容

別添資料 3 : 地震火山関連 XML 電文解説資料【「南海トラフ地震に関連する情報」のみ抜粋】(令和元年 11 月 気象庁地震火山部)

別添資料 4 : 【別冊】南海トラフ地震に関連する情報関連移行措置用 XML 電文解説資料 (令和元年 11 月 気象庁地震火山部)

ç ô - ° H v > 8 ¥ FÜF, ! • GGGc.7ÈÛPFÉG , FiFÜ75!O P ÂFÜL Fpö • 0£#i FçFöZ#. F&G GFçFiFFaFp0£#i FÜFyF, ..7È\$Î
#ÛFp• + öFÜ' - ì Fûš G Fö%&P\$xFÜxGFçFiFFaG"wfafö75!O P ÂG" < FÉG FY² ó G&g&G FçFÜGF, ¼1BçFçFyF, ¥G
GFFaFp² ó G"6 FiFé# 1BÜ\$Î#ÛFçî œ¼FÜFÂ • GGGc.7ÈÛöô4 FÉG _ FÂ\$Î/² FÉGFaFçFçFçFçFçFçF

E•FÂ • GGGc.7ÈÛöô4 FÉG _ FÄyF, è WfP' 8çFp_
i F-\$Î/²

E•FÂ • GGGc.7È+«ì _ FÄÜÜ°FéGG;G\$)G\$WFø G;G\$
G)G\$W'Ü°FéG ² ó

_ i	_ \$Î/² ² ó
! • GGGc.7È+«ì _	<p>E•! • GGGc' FÔF-\$ -Fú# 1BÜÜ{ F&G F FíFp# 1BÜ! • GGGc' FÔF±0d• Fú... 7ÈÛöô4 FÉGFÜFÜÜ* G6ä Fçî œFGFiFy1* G)E)FFçFçG œ</p> <p>E•0{ F&G Fi\$ -Fú# 1Bfp1*) ÝG\$Î /² FÉG œ</p>
! • GGGc.7Èöô4 ÖŽ1 _	<p>E•0{ F&G Fi\$ -Fú# 1Bfp1*) ÝG\$Î /² Fçî < Fp"g # FpN&ã¼G\$Î/² FÉG œ</p> <p>E•FÂ • GGGc' FÔFp..7ÈÛöôFéG0Üo è 0i FÄp [œFÜFÜáG1*) ÝG\$Î /² FÉG œ FFiFç! • GGGc.7È+«ì _ G\$Î/² FÉG œG7VFR</p> <p>B FÉF-FÜ² 0[FÜ75!O P ÂFÜG G FçG7•FyF1* G6ä Fçî " G1*) ÝG"! • GGGc.7Èöô4 ÖŽ1 _ Fç \$Î/² FÉG œFÜGGFé</p>

1* p	<p>0{ F&G Fi\$ -Fú# 1BÜ! • GGGc' FÔF± 0d• Fú..7ÈÛöô4 FÉGFÜFÜÜ* G6ä Fç Fi œFGFiFy1* G)E)FFçFçG œ</p>
g ± ..7È1™D	<p>! • GGGc' FÔFp• 7È; æAFpGGG\$V #úFÜFÜFÜö>àÜÜ Vfp..7ÈÛ\$Î#ÛFçFÜÜ oFçî œ</p>
g ± ..7È@-	<p>! • GGGc' FÔFp• 7È; æAFpGGG\$V #úFÜFÜFÜö>àÜÜ V>àÜÜ 6Fp..7ÈG 3û- Fç FÜGG FçGFÉG GFÜ\$Î#ÛFçFÜÜoFçî œ¼^B HB H</p>
1*) ç	<p>Hg ± ..7È1™DHFHg ± ..7È@-HFpFÔFéG FÜG \ FçyGGFÜFç# 1BÜÜoFçî œ</p>

dHH_ i Fp< FÜG;G\$)G\$W'Ü°FçFÄ • GGGc.7È+«ì _ H1* pFÄFpGfç
\$Î/²

dHH! • GGGc' FÔFp• 7È; æAFpGGG\$V#úFÜFÜFÜM7.0 è VFm8.0 • 6Fp..7È
FÜ\$Î#ÛFçî œFGFiFy! • GGGc' FÔFp• 7È; æAFpGGG\$V#úè ¥G • 7È;
æFp• A3H¥ 50km&i ØGFçFç VF-M7.0 è VFp..7ÈÛ\$Î#ÛFçî œ

dH GFÉG 0£¼F=w -Fús ì FçFçö FçGG GF%Fç±6èFÜGGG\$V#úFç[%Tg Â
FÜÂGFÜûš ì FçFçGGFÜÜ- Fçy\$ FÜGG FçGFÉG GFÜ{ F&G Fi œ

「南海トラフ地震に関連する情報」新電文の各要素の内容（その1）

「南海トラフ地震に関連する情報」の種類	データ種類 コード	Control/Title Body/EarthquakeInfo/InfoKind	Head/Title	Head/EventID	Head/Serial
①南海トラフ地震臨時情報（調査中）	VYSE50	南海トラフ地震臨時情報	南海トラフ地震臨時情報（調査中）	※3	
②南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）	VYSE50	南海トラフ地震臨時情報	南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）	※3	
③南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）	VYSE50	南海トラフ地震臨時情報	南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）	※3	
④南海トラフ地震臨時情報（調査終了）	VYSE50	南海トラフ地震臨時情報	南海トラフ地震臨時情報（調査終了）	※3	
⑤南海トラフ地震関連解説情報 （定例以外※1で発表するもの）	VYSE51	南海トラフ地震関連解説情報	南海トラフ地震関連解説情報（第〇号）	※3	※4
⑥南海トラフ地震関連解説情報 （定例※2で発表するもの）	VYSE52	南海トラフ地震関連解説情報	南海トラフ地震関連解説情報	※3	

【注】

※1：観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況の推移等を発表する場合

※2：「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合

※3：任意の識別番号（14桁半角数字）による識別情報（Head/EventID）を運用します。

ただし、定例以外で発表する「南海トラフ地震関連解説情報」の続報（第2号以降）を発表する際は、第1号と同一の識別番号を用います。

その他の情報では、続報の運用はありません。

※4：定例以外で発表する「南海トラフ地震関連解説情報」では、情報番号（Head/Serial）を運用します。その他の情報では空要素とします。

「南海トラフ地震に関連する情報」新電文の各要素の内容（その2）

「南海トラフ地震に関連する情報」の種類	Head/InfoKind Body/EarthquakeInfo/@type	Body/EarthquakeInfo/InfoSerial/@codeType		備考
		地震関連情報番号コード		
		<Name>	<Code>※3	
①南海トラフ地震臨時情報（調査中）	南海トラフ地震に関連する情報	調査中	111 112 113	※4 ※5 ※6
②南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）	南海トラフ地震に関連する情報	巨大地震警戒	120	
③南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）	南海トラフ地震に関連する情報	巨大地震注意	130	
④南海トラフ地震臨時情報（調査終了）	南海トラフ地震に関連する情報	調査終了	190	
⑤南海トラフ地震関連解説情報 （定例以外※1で発表するもの）	南海トラフ地震に関連する情報	臨時解説	210 219	次回も定例以外（“臨時解説”）で発表する場合 今回は定例（“定例解説”）で発表する場合
⑥南海トラフ地震関連解説情報 （定例※2で発表するもの）	南海トラフ地震に関連する情報	定例解説	200	

【注】

- ※1：観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況の推移等を発表する場合
- ※2：「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合
- ※3：①臨時情報（調査中）（Name=“調査中”）、⑤定例以外の解説情報（Name=“臨時解説”）のそれぞれに対応するCodeの値は複数あります。
- ※4：監視領域内でマグニチュード6.8以上の地震が発生したことにより、臨時に「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催する場合
- ※5：1カ所以上のひずみ計での有意な変化と共に、他の複数の観測点でもそれに関係すると思われる変化が観測され、想定震源域内のプレート境界で通常と異なるゆっくりすべりが発生している可能性がある場合など、ひずみ計で南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる変化を観測したことにより、臨時に「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催する場合
- ※6：その他、想定震源域内のプレート境界の固着状態の変化を示す可能性のある現象が観測される等、南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる現象を観測したことにより、臨時に「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催する場合

【別添資料3】

地震火山関連 XML 電文解説資料

【「南海トラフ地震に関連する情報」のみ抜粋】

令和元年 11 月
気象庁地震火山部

はじめに

本解説資料では、表記短縮のため、基本的に、各要素 (element) を示す場合には当該要素の名称だけを用い (例えば、Status 要素については「Status」、Control/EditorialOffice 要素については「Control/EditorialOffice」のように表記する)、属性 (attribute) を示す場合には属性の名称の前に「@」を付けたものを用いることとしている (例えば、type 属性については「@type」、Areas 要素の codeType 属性については「Areas/@codeType」のように表記する)。また、本解説資料で用いる用語については、以下に示すもののほか、気象庁 XML に関連する各種資料で用いられる用語の例に依る。

用語

津波に関連する情報

津波警報・注意報・予報、津波情報、沖合の津波観測に関する情報をまとめてこのように呼ぶ。

地震・津波に関連する情報

津波に関連する情報、緊急地震速報 (警報)、緊急地震速報 (予報)、緊急地震速報の配信テスト電文、震度速報、震源に関する情報、震源・震度に関する情報、地震の活動状況等に関する情報、地震回数に関する情報、顕著な地震の震源要素更新のお知らせをまとめてこのように呼ぶ。

南海トラフ地震に関連する情報

南海トラフ地震臨時情報、南海トラフ地震関連解説情報をまとめてこのように呼ぶ。

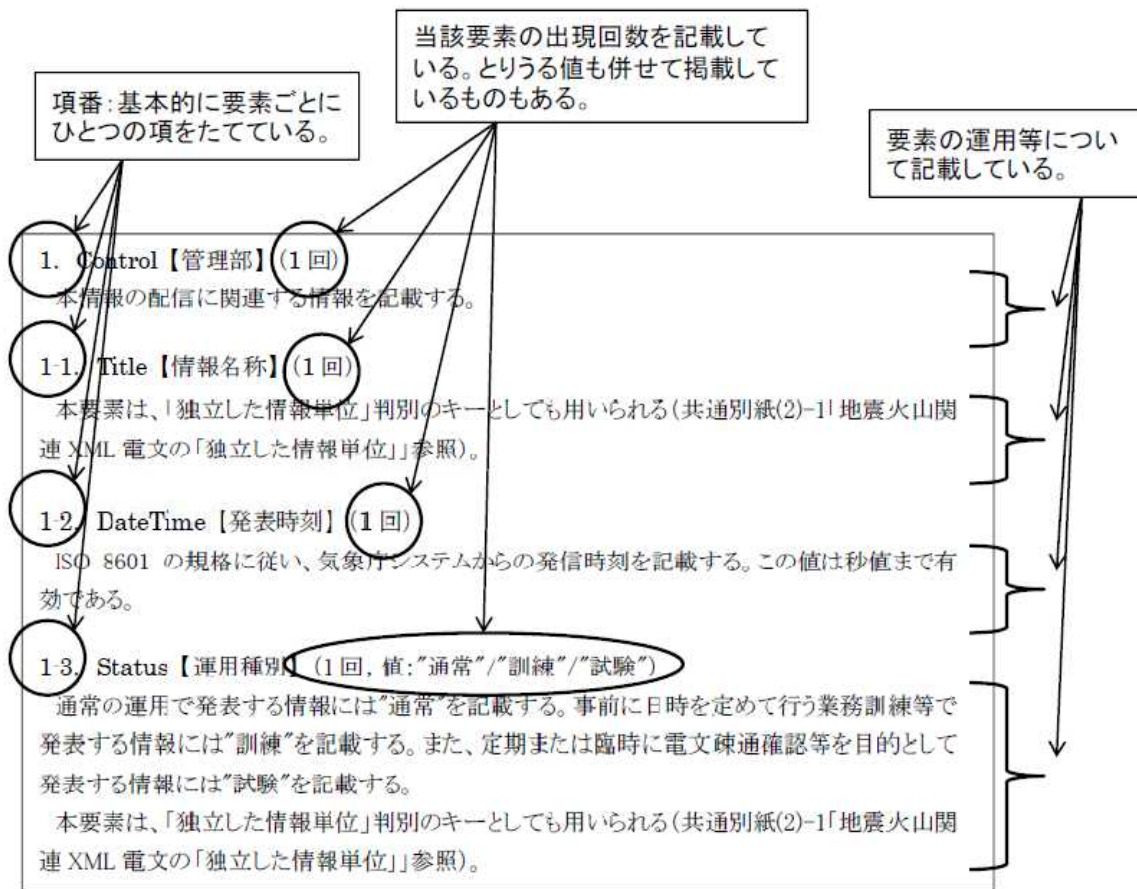
火山に関連する情報

噴火警報・予報、火山の状況に関する解説情報、噴火に関する火山観測報、火山現象に関する海上警報・海上予報、降灰予報、噴火速報をまとめてこのように呼ぶ。

目次

	ページ番号
I. 共通	4
(i) 管理部	
(ii) ヘッダ部	
(iii) 共通別紙	
ア. 地震火山関連 XML 電文の「独立した情報単位」の運用	8
イ. 地震・津波に関連する情報における EventID 要素の運用	省略
ウ. 地震火山関連 XML の取消電文の運用	省略
エ. 南海トラフ地震に関連する情報における EventID 要素及び Serial 要素の運用	9
II. 内容部	
(i) 地震・津波	
ア. 津波警報等	省略
イ. 緊急地震速報	省略
ウ. 地震情報等	省略
エ. 南海トラフ地震に関連する情報	11
オ. 地震・津波に関するお知らせ	省略
(ii) 火山	省略
【別冊】 緊急地震速報関連移行措置用 XML 電文解説資料	省略
【別冊】 南海トラフ地震に関連する情報関連移行措置用 XML 電文解説資料	別 3-1

本解説資料の様式



I. 共通

I. (i) 管理部

Control【管理部】(1 回)

本情報の配信に関連する情報を記載する。

1. Title【情報名称】(1 回)

本要素は、「独立した情報単位」判別のキーとしても用いられる((iii) 共通別紙ア. 「地震火山関連 XML 電文の「独立した情報単位」の運用」参照)。

2. DateTime【発表時刻】(1 回)

ISO 8601 の規格に従い、気象庁システムからの発信時刻を記載する。この値は秒値まで有効である。

3. Status【運用種別】(1 回, 値: “通常”/“訓練”/“試験”)

通常の運用で発表する情報には“通常”を記載する。

事前に日時を定めて行う業務訓練等で発表する情報には“訓練”を記載する。

定期または臨時に電文疎通確認等を目的として発表する緊急地震速報の配信テスト電文には“試験”を記載する。

本要素は、「独立した情報単位」判別のキーとしても用いられる((iii) 共通別紙ア. 「地震火山関連 XML 電文の「独立した情報単位」の運用」参照)。

4. EditorialOffice【編集官署名】(1 回)

本要素は、「独立した情報単位」判別のキーとしても用いられるが、地震・津波に関連する情報、南海トラフ地震に関連する情報及び地震・津波に関するお知らせについては、システム障害発生等により一連の情報であっても編集官署が切り替わる場合があることに留意が必要である。地震・津波に関連する情報等のこうした取扱については、(iii) 共通別紙ア. 「地震火山関連 XML 電文の「独立した情報単位」の運用」を参照すること。

5. PublishingOffice【発表官署名】(1 回)

発表官署名を記載する。

I.(ii)ヘッダ部

Head【ヘッダ部】(1回)

本情報の見出しを記載する。

1. Title【標題】(1回)

情報の標題を記載する。

震源・震度に関する情報において、近地地震の場合には“震源・震度情報”、遠地地震の場合には“遠地地震に関する情報”と記載する。

津波警報・注意報・予報については、発表する情報に含まれる津波予報等の種類の総和表現を記載する。なお、津波警報・注意報を全解除し、全ての津波予報区等で津波予報(若干の海面変動)又は津波なしとなる場合は、事例に示すとおり“津波予報”と記載する。

各地の満潮時刻と津波到達予想時刻を発表する津波情報については“各地の満潮時刻・津波到達予想時刻に関する情報”を、津波の観測値を発表する津波情報については“津波観測に関する情報”を記載する。両者をひとつの津波情報電文で発表する場合は、本要素の中に二つの標題を半角スペースで区切って併記する。

南海トラフ地震に関連する情報においては、情報名称(Control/Title)が”南海トラフ地震臨時情報”の場合は、“南海トラフ地震臨時情報”に続けて情報種別番号名(Body/EarthquakeInfo/InfoSerial/Name)の内容を付記する(例:”南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)”)。また、情報名称(Control/Title)が”南海トラフ地震関連解説情報”の場合は、“南海トラフ地震関連解説情報”と標記し、情報番号(Head/Serial)に値が記載されている場合に限り、一連の情報番号を付記する(例:”南海トラフ地震関連解説情報(第〇号)”)。

火山に関連する情報においては、火山名と情報の種別を記載する。

事例1(津波注意報と津波予報を発表する場合)

```
<Title>津波注意報・津波予報</Title>
```

事例2(津波注意報を全解除し、津波予報(若干の海面変動)が残る場合)

```
<Title>津波予報</Title>
```

事例3(津波注意報を全解除し、全ての津波予報区で津波なしとなる場合)

```
<Title>津波予報</Title>
```

事例4(大津波警報、津波警報、津波注意報、津波予報を発表する場合)

```
<Title>大津波警報・津波警報・津波注意報・津波予報</Title>
```

2. ReportDateTime【発表時刻】(1回)

発表官署が本情報を発表した時刻を記載する。

緊急地震速報(警報)及び緊急地震速報(予報)、緊急地震速報の配信テスト電文については秒値まで、その他の地震・津波・南海トラフ地震・火山に関連する情報については、分値まで有効である。

3. TargetDateTime【基点時刻】(1回)

情報の内容が発現・発効する基点時刻を記載する。

震度速報については地震波の検知時刻を、地震情報(顕著な地震の震源要素更新のお知らせ)については震源要素を切り替えた時刻を、津波の観測値を発表する津波情報、沖合の津波観測に関する情報については津波の観測状況を確定した時刻を記載する。火山現象に関する海

上警報については火山活動の観測時刻、噴火に関する火山観測報、噴火速報については報じる現象の発現時刻、降灰予報については情報の対象となる時間帯の基点時刻を記載する。その他の地震・津波・火山に関連する情報については、ヘッダ部の発表時刻 (Head/ReportDateTime) の値を記載する。

なお、緊急地震速報(警報)、緊急地震速報(予報)、及び緊急地震速報の配信テスト電文については秒値まで、その他の地震・津波・南海トラフ地震・火山に関連する情報については、分値まで有効である。ただし、噴火に関する火山観測報、噴火速報については、基本的に分値まで有効であるが、TargetDTDubious が出現する場合は、それで示すあいまいさに応じた単位までが有効、発現時刻が不明の場合には xsi:nil="true" 属性値により空要素となる。

事例(噴火に関する火山観測報において、本要素が空要素として出現する場合)

```
<TargetDateTime xsi:nil="true" />
```

4. TargetDTDubious【基点時刻のあいまいさ】

(0 回/1 回, 値:“頃”/“年頃”/“月頃”/“日頃”/“時頃”/“分頃”/“秒頃”)

南海トラフ地震に関連する情報では出現しないため省略

5. ValidDateTime【失効時刻】(0 回/1 回)

南海トラフ地震に関連する情報では出現しないため省略

6. EventID【識別情報】(1 回)

地震・津波に関連する情報については、ある特定の地震を識別するための地震識別番号(14 桁の数字)を記載する。津波に関連する情報では、当該警報等に寄与している地震の地震識別番号を記載するため、1つの電文に複数の地震識別番号が出現する場合もある。詳細については、(iii) 共通別紙イ.「地震・津波に関連する情報の EventID 要素の運用」を参照。

南海トラフ地震に関連する情報については、任意の識別番号(14 桁の数字)を記載する。詳細については、(iii) 共通別紙エ.「南海トラフ地震に関連する情報における EventID 要素及び Serial 要素の運用」を参照。

火山に関連する情報については、3桁の火山番号を記載する。ただし、噴火に関する火山観測報及び噴火速報については、ReportDateTime と火山番号を“-”で連結して記載する。

地震・津波に関するお知らせや火山に関するお知らせについては、情報発表日時分(14 桁の数字)を記載する。

7. InfoType【情報形態】(1 回)

情報を発表する場合は“発表”を、「独立した情報単位」において直前の時点で発表されている Control/DateTime の最も新しい電文を訂正する場合は“訂正”を、「独立した情報単位」全体を取り消す場合は“取消”を記載する。取消電文の運用については、(iii) 共通別紙ウ.「取消電文の運用」を参照。

8. Serial【情報番号】(1 回)

続報を発表し、内容を更新する情報については、情報番号を記載する。続報を発表する度に情報番号を更新するが、取消報の場合は、番号は更新しない。訂正報の場合は訂正する直近の情報の情報番号を記載する。

南海トラフ地震に関連する情報については、続報を発表する情報で情報番号を記載する。詳細については、(iii) 共通別紙エ.「南海トラフ地震に関連する情報における EventID 要素及び

Serial 要素の運用」を参照。

※なお、同一種別の情報における最新情報の検索にあたっては、本要素ではなく管理部の発表時刻(Control/DateTime)を参照すること。

9. InfoKind【スキーマの運用種別情報】(1回)

10. InfoKindVersion【スキーマの運用種別情報のバージョン番号】(1回)

11. Headline【見出し要素】(1回)

子要素に Text 及び Information をもつ。

11-1. Text【見出し文】(1回)

見出し文を自由文形式で記載する。

11-2. Information【見出し防災気象情報事項】(0回以上)

地震火山関連 XML 電文では、情報によって本要素の運用が異なる。このため、以下のとおり個別に解説する。

津波に関連する情報については、11-2(1)にて解説する。

緊急地震速報については、11-2(2)にて解説する。

地震情報等については、11-2(3)にて解説する。

南海トラフ地震に関連する情報では、本要素は出現しない。

地震・津波に関するお知らせでは、本要素は出現しない。

火山に関連する情報については、11-2(4)にて解説する。

火山に関するお知らせでは、本要素は出現しない。

なお、情報形態(Head/InfoType)が“取消”の場合、情報名称に関わらず本要素は出現しない((iii)共通別紙ウ。「取消電文の運用」を参照)。

以下省略

地震火山関連 XML 電文の「独立した情報単位」の運用

地震火山関連 XML 電文における「独立した情報単位」の判別キーとしては、管理部の情報名称 (Control/Title)、運用種別 (Control/Status)、編集官署名 (Control/EditorialOffice)、ヘッダ部の識別情報 (Head/EventID) が利用可能であり、各々の情報における「独立した情報単位」の判別は下表のとおりである。

地震・津波に関連する情報	<p>情報名称、運用種別、及び地震識別番号（識別情報内に出現）の組み合わせが一致する一連の情報を「独立した情報単位」として扱う。</p> <p>（同一の地震であってもシステム障害発生等により編集官署が切り替わる場合がある。また、津波に関連する情報では、複数の地震識別番号を持つ場合がある。）</p>
南海トラフ地震に関連する情報	<p>情報名称、運用種別、及び識別情報の組み合わせが一致する一連の情報を「独立した情報単位」として扱う。</p> <p>（一連の情報であっても編集官署が切り替わる場合がある。）</p>
地震・津波に関するお知らせ	<p>情報名称、運用種別、及び識別情報の組み合わせが一致する一連の情報を「独立した情報単位」として扱う。</p> <p>（発表した電文と当該電文を取消す電文において編集官署が切り替わる場合もある。）</p>
火山に関連する情報	<p>情報名称、運用種別、編集官署名、及び識別情報の組み合わせが一致する一連の情報を「独立した情報単位」として扱う。</p>
火山に関するお知らせ	

南海トラフ地震に関連する情報における EventID 要素及び Serial 要素の運用

1. 適用範囲

本資料は、以下（１）～（３）の電文に出現する識別情報（Head/EventID 要素（以降、「EventID」という。））及び情報番号（Head/Serial 要素（以降、「Serial」という。））の運用について説明するものである。

- （１）南海トラフ地震臨時情報
- （２）南海トラフ地震関連解説情報（観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況等を発表する場合の情報。以降、「定例以外で発表する南海トラフ地震関連解説情報」という。）
- （３）南海トラフ地震関連解説情報（「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合の情報。以降、「定例で発表する南海トラフ地震関連解説情報」という。）

2. EventID の運用

2. 1 EventID の出現回数

上記 1.（１）～（３）の電文において必ず 1 回だけ出現する。

2. 2 EventID の内容

上記 1.（１）～（３）の電文については、任意の 1 つの識別番号（2. 3 を参照）のみが内容として入る。

2. 3 識別番号

（１）書式

14 桁の半角数字表記である。

（２）番号割振ルール

原則、発表する情報毎に任意の識別番号を割り振る。ただし、上記 1.（２）の電文において続報（第 2 号以降）を発表する際は、第 1 号と同一の識別番号を用いる。

EventID の内容の具体的な出現例を 4. に示す。

（３）留意事項

識別番号そのものが物理的な意味（地震発生時刻等）を持つものではない。

3. Serial の運用

3. 1 Serial の出現回数

上記 1.（１）～（３）の電文において必ず 1 回だけ出現する。

3. 2 Serial の内容

上記 1.（１）（３）の電文については、常に空要素となる。

上記 1.（２）の電文については、情報番号（3. 3 を参照）が内容として入る。

3. 3 情報番号

(1) 書式

“1”以上“99999999”以下の半角数字表記である。

(2) 番号割振ルール

上記1.(2)の電文で発表する「定例以外で発表する南海トラフ地震関連解説情報」のうち、最初に発表したものを第1号 (Serial="1") とし、続報 (第2号、第3号、…) を発表する際は、連番で情報番号 (Serial="2"、"3"、…) を振っていく。

ただし、上記1.(3)の電文で発表する「定例で発表する南海トラフ地震関連解説情報」の発表後、最初に発表する「定例以外で発表する南海トラフ地震関連解説情報」の情報番号は第1号 (Serial="1") に戻り、その後に続報 (第2号、第3号、…) を発表する際は、再び連番で情報番号 (Serial="2"、"3"、…) を振っていく。

Serial の内容の具体的な出現例を4. に示す。

4. EventID 要素及び Serial 要素の出現例

南海トラフ地震に関連する情報を発表する都度の EventID 要素及び Serial 要素の出現例を以下の表に示す。

Control/Title	Head/Title	Head/EventID	Head/Serial	備考
南海トラフ地震関連解説情報	南海トラフ地震関連解説情報	20990110170000	(空要素)	※3
南海トラフ地震臨時情報	南海トラフ地震臨時情報 (調査中)	20990201130000	(空要素)	※1
南海トラフ地震臨時情報	南海トラフ地震臨時情報 (調査終了)	20990201150000	(空要素)	※1
南海トラフ地震関連解説情報	南海トラフ地震関連解説情報 (第1号)	20990201160000	1	※2
南海トラフ地震関連解説情報	南海トラフ地震関連解説情報	20990205170000	(空要素)	※3
南海トラフ地震関連解説情報	南海トラフ地震関連解説情報	20990305170000	(空要素)	※3
南海トラフ地震臨時情報	南海トラフ地震臨時情報 (調査中)	20990401130000	(空要素)	※1
南海トラフ地震臨時情報	南海トラフ地震臨時情報 (巨大地震注意)	20990401160000	(空要素)	※1
南海トラフ地震関連解説情報	南海トラフ地震関連解説情報 (第1号)	20990402100000	1	※2
南海トラフ地震関連解説情報	南海トラフ地震関連解説情報 (第2号)	20990402100000	2	※2
南海トラフ地震関連解説情報	南海トラフ地震関連解説情報 (第3号)	20990402100000	3	※2
:	:	:	:	:
南海トラフ地震関連解説情報	南海トラフ地震関連解説情報	20990705170000	(空要素)	※3
:	:	:	:	:
南海トラフ地震臨時情報	南海トラフ地震臨時情報 (調査中)	20991001130000	(空要素)	※1
南海トラフ地震臨時情報	南海トラフ地震臨時情報 (巨大地震注意)	20991001150000	(空要素)	※1
南海トラフ地震関連解説情報	南海トラフ地震関連解説情報 (第1号)	20991002100000	1	※2
南海トラフ地震関連解説情報	南海トラフ地震関連解説情報 (第2号)	20991002100000	2	※2
南海トラフ地震関連解説情報	南海トラフ地震関連解説情報 (第3号)	20991002100000	3	※2
南海トラフ地震臨時情報	南海トラフ地震臨時情報 (調査中)	20991004130000	(空要素)	※1
南海トラフ地震臨時情報	南海トラフ地震臨時情報 (巨大地震警戒)	20991004150000	(空要素)	※1
南海トラフ地震関連解説情報	南海トラフ地震関連解説情報 (第4号)	20991002100000	4	※2
南海トラフ地震関連解説情報	南海トラフ地震関連解説情報 (第5号)	20991002100000	5	※2
:	:	:	:	:

※1：上記1.(1)の電文で発表する「南海トラフ地震臨時情報」

※2：上記1.(2)の電文で発表する「定例以外で発表する南海トラフ地震関連解説情報」

※3：上記1.(3)の電文で発表する「定例で発表する南海トラフ地震関連解説情報」

II. (i)エ. 南海トラフ地震に関連する情報

Body【内容部】(1回)

本情報の内容を記載する。

1. EarthquakeInfo【地震関連情報】(0回/1回)

南海トラフ地震に関連する情報に関する諸要素を記載する。種別では@typeとして“南海トラフ地震に関連する情報”が用いられる。

情報形態(Head/InfoType)が“取消”の場合、本要素は出現しない。

1-1. InfoKind【情報名称】(1回)

南海トラフ地震に関連する情報の情報名称を表し、“南海トラフ地震臨時情報”又は“南海トラフ地震関連解説情報”を記載する。

1-2. InfoSerial【情報種別番号】(0回/1回)

南海トラフ地震に関連する情報の情報種別(「南海トラフ地震臨時情報」においては情報名の後に付記するキーワードの種別、「南海トラフ地震関連解説情報」においては「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における発表か否か)を表す番号を記入するために用いる。コード種別では@codeTypeとして“地震関連情報番号コード”が用いられる。

1-2-1. Name【情報種別番号名】(1回)

南海トラフ地震に関連する情報の情報種別を表す。別途提供するコード表を参照。

1-2-2. Code【情報種別番号コード】(1回)

南海トラフ地震に関連する情報の情報種別を表すコードを表示する。別途提供するコード表を参照。

1-3. Text【本文】(1回)

自由文形式により、情報の本文を記載する。

1-4. Appendix【参考情報】(0回/1回)

南海トラフ地震に関連する情報の種類などの参考情報を記載する。

2. NextAdvisory【次回発表予定】(0回/1回)

次回の情報発表予定時刻等に関する情報(情報発表の終了を含む)を記載する。

情報形態(Head/InfoType)が“取消”の場合、本要素は出現しない。

3. Text【テキスト要素】(0回/1回)

自由文形式で追加的に情報を記載する必要がある場合等に、本要素を用いて記載する。例えば、ヘッダ部の「情報形態」(Head/InfoType)が“取消”の場合に、取消しの概要等を本要素に記載する。

【別添資料4】

【別冊】

南海トラフ地震に関連する情報関連
移行措置用 XML 電文解説資料

令和元年 11 月

気象庁地震火山部

はじめに

気象庁は、平成 29 年 9 月 26 日の中央防災会議防災対策実行会議「南海トラフ沿いの地震観測・評価に基づく防災対応検討ワーキンググループ」の検討結果の報告を受け、同年 11 月 1 日から、新たに「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」及び「南海トラフ地震に関連する情報（定例）」の 2 種類の情報の提供を開始した（これら 2 種類の情報の総称を「南海トラフ地震に関連する情報」と呼んでいた）。

更に、令和元年 5 月 31 日の中央防災会議での「南海トラフ地震防災対策推進基本計画」の変更を踏まえ、同日から、上記 2 種類の情報に替わり、新たな情報名称の「南海トラフ地震臨時情報」及び「南海トラフ地震関連解説情報」の提供を開始した（これ以降、これら 2 種類の情報の総称を「南海トラフ地震に関連する情報」という）。

これらの情報は、何れも従来より用いている「地震情報（地震の活動状況等に関する情報）」の電文（VXSE56）を活用して発表してきたが、これは暫定的な措置であり、その後さらに十分な準備期間を設けた後、新たな電文によりこれらの情報を発表する予定であることをお知らせしていた。

今般、「南海トラフ地震に関連する情報」の新たな電文の仕様が確定したことから、新たな電文による「南海トラフ地震に関連する情報」の XML 電文解説資料を「地震火山関連 XML 電文解説資料」の本編に掲載し、従来の電文を活用した「南海トラフ地震に関連する情報」の XML 電文解説資料は「地震火山関連 XML 電文解説資料」の別冊として、この「南海トラフ地震に関連する情報関連移行措置用 XML 電文解説資料」（以下「本解説資料」という。）に掲載する。

なお、新たな電文による「南海トラフ地震に関連する情報」の提供開始（令和 2 年度 6 月頃を予定）の後も、移行措置として当分の間（新たな電文の提供開始後、2 年間程度を予定）、従来の電文を活用した「南海トラフ地震に関連する情報」の提供を並行して行う予定である。

本解説資料は、「平成 29 年 9 月 29 日 気象庁地震火山部 配信資料に関する技術情報（地震火山編）第 472 号 ～「南海トラフ地震に関連する情報」の運用開始～」及び「平成 31 年 4 月 26 日 気象庁地震火山部 配信資料に関するお知らせ ～現行の電文を活用した「南海トラフ地震臨時情報」及び「南海トラフ地震関連解説情報」の発表方法について～」の内容を統合、再編集したものである。

現行の電文を活用した
「南海トラフ地震臨時情報」及び「南海トラフ地震関連解説情報」の発表方法

1. 活用する現行電文のデータ種類コード

XML電文 : VXSE56

※このデータ種類コードは、本来「地震情報（地震の活動状況等に関する情報）」の電文で用いているものであり、「伊豆東部の地震活動の見通しに関する情報」もこの電文を用いている。

※「南海トラフ地震臨時情報」及び「南海トラフ地震関連解説情報」では、暫定的な措置として、このデータ種類コードの電文を活用して情報を発表している。

2. 電文内容概要

本項では、「南海トラフ地震臨時情報」及び「南海トラフ地震関連解説情報」の各情報に共通する事項と、個別に異なる事項に分けて、以下に記載する。

2. 1 共通事項

要素設定は、「地震火山関連 XML 電文解説資料」の本編に記載している「地震情報（地震の活動状況等に関する情報）」と同様であるが、特記事項は以下のとおり。

ア. 管理部の情報名称 (Control/Title)

「地震の活動状況等に関する情報」で固定。

イ. ヘッダ部の識別情報 (Head/EventID)

任意の識別番号を値として入れる。なお、続報を発表する際は、同一の識別番号を用いる。

ウ. ヘッダ部の情報番号 (Head/Serial)

常に空要素となる。

2. 2 個別事項

(1) 南海トラフ地震臨時情報

ア. ヘッダ部の見出し文 (Head/Headline/Text) の内容

“南海トラフ地震に関連する情報（臨時）を発表します。”

イ. 内容部のテキスト要素 (Body/Text) の内容

- ・ 情報文タイトルを含む全文を本文中に記載する。
- ・ 情報文タイトルは次の四つのうち何れか一つに記載する。
”南海トラフ地震臨時情報（調査中）”

- ” 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒） ”
- ” 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意） ”
- ” 南海トラフ地震臨時情報（調査終了） ”
- ・ 情報番号は付記しない。
- ・ 本文中に、この情報は従来の「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」に用いている電文を活用して発表している旨の文章を記載し、その中に” 南海トラフ地震に関連する情報（臨時）” の文字列を記載する。

（２）南海トラフ地震関連解説情報

①観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況等を発表する場合

ア. ヘッダ部の見出し文（Head/Headline/Text）の内容

“南海トラフ地震に関連する情報（臨時）を発表します。”

イ. 内容部のテキスト要素（Body/Text）の内容

- ・ 情報文タイトルを含む全文を本文中に記載する。
- ・ 情報文タイトルは” 南海トラフ地震関連解説情報” を記載する。
- ・ 情報文タイトルに続けて、一連の情報番号として”（第〇号）” を付記する。
- ・ 本文中に、この情報は従来の「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」に用いている電文を活用して発表している旨の文章を記載し、その中に” 南海トラフ地震に関連する情報（臨時）” の文字列を記載する。

②「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合（南海トラフ地震臨時情報を発表する場合を除く。）

ア. ヘッダ部の見出し文（Head/Headline/Text）の内容

“南海トラフ地震に関連する情報（定例）を発表します。”

イ. 内容部のテキスト要素（Body/Text）の内容

- ・ 情報文タイトルを含む全文を本文中に記載する。
- ・ 情報文タイトルは” 南海トラフ地震関連解説情報” を記載する。
- ・ 情報番号は付記しない。
- ・ 本文中に、この情報は従来の「南海トラフ地震に関連する情報（定例）」に用いている電文を活用して発表している旨の文章を記載し、その中に” 南海トラフ地震に関連する情報（定例）” の文字列を記載する。

3. その他

電文の例は次ページ以降のとおり。

(1) 南海トラフ地震臨時情報の電文例 (“巨大地震警戒” の場合)

```
VXSE56 RJTD 070504@
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Report xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/" xmlns:jmx="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/">
  <Control>
    <Title>地震の活動状況等に関する情報</Title>
    <DateTime>2019-11-07T05:04:24Z</DateTime>
    <Status>通常</Status>
    <EditorialOffice>気象庁本庁</EditorialOffice>
    <PublishingOffice>気象庁</PublishingOffice>
  </Control>
  <Head xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/informationBasis1/">
    <Title>地震の活動状況等に関する情報</Title>
    <ReportDateTime>2019-11-07T14:04:00+09:00</ReportDateTime>
    <TargetDateTime>2019-11-07T14:04:00+09:00</TargetDateTime>
    <EventID>20191107140400</EventID>
    <InfoType>発表</InfoType>
    <Serial></Serial>
    <InfoKind>地震の活動状況等に関する情報</InfoKind>
    <InfoKindVersion>1.0_0</InfoKindVersion>
    <Headline>
      <Text>南海トラフ地震に関連する情報（臨時）を発表します。</Text>
    </Headline>
  </Head>
  <Body xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/body/seismology1/"
  xmlns:jmx_eb="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/elementBasis1/">
    <Text>
      南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）
    </Text>
  </Body>
</Report>
```

**** 見出し ****

本日（●日）●時●分に●●●●●●を震源とするM●. ●の地震が発生しました。この地震と南海トラフ地震との関連性について検討した結果、この地震は南海トラフ地震の想定震源域のプレート境界のうち、●●●●●●から●●●●●●にかけての領域で発生したモーメントマグニチュード●. ●の地震と評価されました。

南海トラフ地震の想定震源域では、大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。世界の事例ではM8.0以上の地震発生後に隣接領域で、M8クラス以上の地震が7日以内に発生する頻度は十数回に1回程度となります。今後の政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください。

**** 本文 ****

本日（●日）●時●分に、●●●●●●を震源とするM●. ●の地震が発生しました。その後の地震活動は活発な状態が続いています。また、●●地域のひずみ観測点では、M●. ●の地震に伴う変化（とそれに引き続くゆっくりとした変化）が観測されています。

気象庁では、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会を臨時に開催し、この地震と南海トラフ地震との関連性について検討しました。（途中省略）

今後の政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください。

気象庁では、引き続き注意深く南海トラフ沿いの地殻活動の推移を監視します。

※モーメントマグニチュードは、震源断層のずれの規模を精査して得られるマグニチュードです。気象庁が地震情報等で、お知らせしているマグニチュード（M）とは異なる値になる場合があります。

※評価検討会は、従来の東海地域を対象とした地震防災対策強化地域判定会と一体となって検討を行っています。

※この情報は従来の「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」に用いていた電文を活用して発表しています。

**** 次回発表予定 ****

今後は、「南海トラフ地震関連解説情報」で地殻活動の状況等を発表します。次回の情報発表は、●時頃を予定しています。なお、新たな変化を観測した場合には即時発表します。

**** （参考） 南海トラフ地震に関連する情報の種類 ****

【南海トラフ地震臨時情報】
（途中省略）

【南海トラフ地震関連解説情報】
（以下省略）

</Text>

(2) ①南海トラフ地震関連解説情報の電文例（観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況等を発表する場合）

```
VXSE56 RJTD 070510@
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Report xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/" xmlns:jmx="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/">
<Control>
  <Title>地震の活動状況等に関する情報</Title>
  <DateTime>2019-11-07T05:10:36Z</DateTime>
  <Status>通常</Status>
  <EditorialOffice>気象庁本庁</EditorialOffice>
  <PublishingOffice>気象庁</PublishingOffice>
</Control>
<Head xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/informationBasis1/">
  <Title>地震の活動状況等に関する情報</Title>
  <ReportDateTime>2019-11-07T14:10:00+09:00</ReportDateTime>
  <TargetDateTime>2019-11-07T14:10:00+09:00</TargetDateTime>
  <EventID>20191107140900</EventID>
  <InfoType>発表</InfoType>
  <Serial></Serial>
  <InfoKind>地震の活動状況等に関する情報</InfoKind>
  <InfoKindVersion>1.0_0</InfoKindVersion>
  <Headline>
    <Text>南海トラフ地震に関連する情報（臨時）を発表します。</Text>
  </Headline>
</Head>
<Body xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/body/seismology1/"
xmlns:jmx_eb="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/elementBasis1/">
  <Text>南海トラフ地震関連解説情報（第2号）

  ** 見出し **
  昨日（●日）●時●分頃に●●●●●●●●を震源とするM●. ●（モーメントマグニチュード●. ●）の地震が発生しました。その後も地震活動は活発な状態が続いています。
  この地震と南海トラフ地震との関連性について検討した結果、この地震は南海トラフ地震の想定震源域のプレート境界のうち、●●●●●●●●から●●●●●●●●にかけての領域で発生したものと考えられます。

  政府では、南海トラフ地震防災対策推進地域に対して●月●日●時まで警戒（注意）する措置をとるよう呼びかけています。引き続き、政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください。

  ** 本文 **
  昨日（●日）●時●分に、●●●●●●●●を震源とするM●. ●（モーメントマグニチュード●. ●）の地震が発生しました。その後も地震活動は活発な状態が続いています。
  昨日（●日）●時から本日（●日）●時までには南海トラフ地震の想定震源域で発生したM●. ●以上（暫定値）の地震回数は次の通りです。
  （途中省略）
  政府では、南海トラフ地震防災対策推進地域に対して●月●日●時まで警戒（注意）する措置をとるよう呼びかけ等しています。引き続き、政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください。
  気象庁では、引き続き注意深く南海トラフ沿いの地殻活動の推移を監視します。
  ※この情報は従来の「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」に用いていた電文を活用して発表しています。

  ** 次回発表予定 **
  今後も、「南海トラフ地震関連解説情報」で地殻活動の状況等を発表します。次回の情報発表は、●日●時頃を予定しています。
  なお、新たな変化を観測した場合には随時発表します。

  ** （参考） 南海トラフ地震に関連する情報の種類 **
  【南海トラフ地震臨時情報】
  （途中省略）
  【南海トラフ地震関連解説情報】
  （以下省略）
  </Text>
</Body>
</Report>
```

(2) ②南海トラフ地震関連解説情報の電文例（「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合）

```
VXSE56 RJTD 070512@
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Report xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/" xmlns:jmx="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/">
<Control>
  <Title>地震の活動状況等に関する情報</Title>
  <DateTime>2019-11-07T05:12:33Z</DateTime>
  <Status>通常</Status>
  <EditorialOffice>気象庁本庁</EditorialOffice>
  <PublishingOffice>気象庁</PublishingOffice>
</Control>
<Head xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/informationBasis1/">
  <Title>地震の活動状況等に関する情報</Title>
  <ReportDateTime>2019-11-07T14:12:00+09:00</ReportDateTime>
  <TargetDateTime>2019-11-07T14:12:00+09:00</TargetDateTime>
  <EventID>20191107141200</EventID>
  <InfoType>発表</InfoType>
  <Serial></Serial>
  <InfoKind>地震の活動状況等に関する情報</InfoKind>
  <InfoKindVersion>1.0_0</InfoKindVersion>
  <Headline>
    <Text>南海トラフ地震に関連する情報（定例）を発表します。</Text>
  </Headline>
</Head>
<Body xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/body/seismology1/"
  xmlns:jmx_eb="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/elementBasis1/">
  <Text>南海トラフ地震関連解説情報

  ** 見出し **
  第●回南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、第●回地震防災対策強化地域判定会で、南海トラフ周辺の地殻活動を評価しました。

  ** 本文 **
  本日（●月●日）開催した第●回南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、第●回地震防災対策強化地域判定会で評価した、南海トラフ周辺の地殻活動の調査結果は以下のとおりです。

  現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時（注）と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

  （途中省略）

  1. 地震の観測状況
  （途中省略）
  2. 地殻変動の観測状況
  （途中省略）
  3. 地殻活動の評価
  （途中省略）

  上記観測結果を総合的に判断すると、南海トラフ地震の想定震源域ではプレート境界の固着状況に特段の変化を示すようなデータは今のところ得られておらず、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていないと考えられます。
  ※この情報は従来の「南海トラフ地震に関連する情報（定例）」に用いていた電文を活用して発表しています。

  ** （参考） 南海トラフ地震に関連する情報の種類 **
  【南海トラフ地震臨時情報】
  （途中省略）
  【南海トラフ地震関連解説情報】
  （以下省略）
  </Text>
</Body>
</Report>
```